

2023 年度 9 月 野外活動

京都伏見界限散策

日時： 2023 年 9 月 15 日(金)
集合場所： 京阪線中書島駅北口
天候： 晴れ
参加者： 菊地、長谷川、高城、小林
企画・記録： 梶木・小林

目的：伏見十石船の利用目的等を学び、宇治川派流の景色を楽しみ、三栖閘門資料館で大阪～京都間を結ぶ淀川の舟運が運送手段の重要な伏見港の利用をコントロールするために三栖閘門の建設経過を学びます。

伏見はお酒の歴史は古く酒米と水に恵まれお酒が製造されてきました。2 銘柄の酒造会社を見学し、伏見の街を散策する。



行程：10:00 京阪中書島駅～10:20 伏見十石船に乗船～10:40 三栖閘門資料館 11:00～11:20 月桂冠大倉記念館～12:00 寺田屋～12:20 キザクラカップカントリ（昼食）見学～伏見の町を散策 14:30 京阪中書島で解散

伏見十石舟・三十石舟



十石舟は江戸時代に淀川をお米や酒、旅客を運んだ三十石舟を復元された。

定員は 20 人で船頭と案内



役の二人が乗船、救命道具は席の後ろに設置されていた。当日は満員の乗客で出航した。船の安定が不安定になるので、立ち上がることを禁じていた。舟に左右傾き傾斜器を見ながら前に乗った人に移動を指示。

宇治川派流の川筋には桜や柳の木を見ながら、また、酒蔵の建物等が美しく眺めることが出来ました。

三栖閘門

十石舟の終点近づくのと、塔（閘門）が見えてきます。この装置は1918年からまった淀川改修（築堤工事）で伏見港と宇治川が舟での運航が出来なくなった。そのため1929年宇治川と宇治川派流と合流点に三栖閘門を建設しました。建設当時は石炭などの輸送が活発となりましたが、1962年ころに貨物輸送が陸上輸送に切り替わり、淀川舟運は無くなりました。

三栖閘門資料館

歴史遺産の保全と伏見の歴史・文化を未来に語り継ぐため、親水性あふれる空間として生まれ変わりました。三栖閘門施設の模型、閘門の歴史・パネルなどが展示されており、帰りまでの間、涼をとりながら待ちました。堤防を上がると、宇治川との関係、伏見みなと広場等を見ました。

月桂冠大倉記念館

十石舟で戻り伏見の酒どころ、月桂冠大倉記念館に行く。
入場券と猪口とコイン3枚もらって、ホールへ、お酒のできるまでの上映みて、展示室でお酒に対する資料展示を見学し、中庭に出る、井戸の水が流れ出ている。猪口で酒造りに欠かせない、まるやかな水を頂く。いよいよ唎酒コーナーへ10種類のお酒の説明を聞き、唎酒に3種類を頂き見学終了。

伏見界限散策

寺田屋を目指して宇治川派流沿いに行く、歴史は、「伏見の旅籠（船宿）の寺田屋に滞在していた薩摩藩・久留米藩・岡藩・秋月藩等の尊王攘夷派志士のうち、薩摩藩から脱藩した志士の一部を、鎮撫使としてやってきた薩摩藩士が上意討ちと称して殺傷し、残りの多くを投降させた」として有名。外から見学する。



キザクラカッパカントリー

高城さん作成の日本酒のラベルの見方に付いての説明がありました。
お腹を満たして、キザクラカッパカントリーで黄桜宣伝カッパ黄桜記念館を見学し、カッパをキャラクターとした宣伝を当時の上映を見学、これは「当時の社長が黄桜を広報していくのに、何かキャラクターがあった方がいいと考えていた中、たまたま週刊朝日で連載中だった清水崑さんの漫画「かっぱ天国」に描かれていたカッパのイラストを目にしたのがきっかけで、清水さんに依頼し、カッパがイメージキャラクター」となったそうです。